デザイナーのための経済コラム(59)

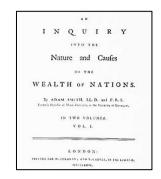
経済、エコノミー概念の創造的変化

イキ・リスのアダム・スミス(1723~1790)の『国富論・ The Wealth of Nations(1776)』の正式な書名は『An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations』とされています。この書名には経済・economyという言葉が含まれていません。この本が有名になったのは「見えざる手・invisible hand」かと思います。この本の第4章が「politocal economy」になっています。アダム・スミスと同時代のジェームス・スチュアート(1712~1780)の『政治経済原理の探求』の原題名は『Inquiry into the Princepal of Polotical Economy』になっています。

https://ja.wikipedia.org/wiki/アダム・スミス

https://ja.wikipedia.org/wiki/見えざる手

https://ja.wikipedia.org/wiki/ジェームズ・ステュアート(経済学者)



アダム・スミスもジェムス・スチュアートも当時はまだ「経済」という概念が確立していなかった時代に、現在の「経済・economy」という概念を顕在化させたと思います。当時一般に「economy」は「家事、家計」のように狭い意味で使われていたようです。「economy」の語源がキーリシア語の「oikos・家」と「nomos・管理」から来ていると言われます。economyにPolitical(国、国家)を付け加えてeconomyの概念がふくらみました。漢字の「経済」は隋の時代の『文中子』礼楽篇に「皆有経済之道、謂経世済民」として初出し、「経済」と略して使われたと言われます。この時の「経済」は現代流にいえば「福祉を通しての国政」ということになると思います。現在使われている「経済」の概念を再確認して広めたのは福沢諭吉と言われています。 https://szu-tokyo.jp/2024/07/29/economy/

「Political economy」が略されて「economy」だけで「経済」の概念を意味するようになると、「economy」が持っていた「家計」の意味を明確に表現する言葉が必要になってきて「Home management」が使われるようになったのかと推測します。ここでまた意味の転用、概念の拡大がされています。「management」の本来の意味が「(馬)の手綱さばき」だったと言われます。発想の飛躍をするには着想、ひらめきとともに既存概念の流用、転用、拡大が必要なのかも知れません。

https://note.com/butai biz/n/n1f3edc66b763

庶民的な平易な言葉で「経済」についてどのように言い伝えられて来たのか考えてみました。「生業・なりわい」かと思います。「家、町、国のなりわい」が成り立つこと、かと思います。もっと簡単な表現として「作り手良し、売り手良し、買い手良し」かと思います。また、経済活動の複雑な相関関係、需給関係をうまく言い表しているのは「風が吹けば桶屋が儲かる」ということわざかと思います。需給関係の負の変化に落ち込むことなく楽観的に対応を考えることを勧めているのは「捨てる神に、拾う神」ということわざなど。

明治以降、日本に欧米の経済学が入ってきました。その時、欧米の経済学をどのように受け取っていたかは分かりません。決して何も新しい知識とはならなかったと思います。市場経済、非市場経済の概念も、金利、利子の概念も、為替、先物取引、投資、株などの概念があったことは知られています。だからこそ、江戸時代に世界の中でトップクラスの大阪や江戸の大都市が形成され、維持されていたのだと思います。いい意味でも、悪い意味でも100年以上の歴史を持つ企業が断トツに多いのも日本です。

https://www.tdb.co.jp/report/economic/20241024_shinise2024/

長寿命企業が多くあるということは、経済倫理、経営理念、経営資源、顧客、行政が安定的、持続的だったと言えると思います。この時代の日本はSDGsの目標12番目、「持続可能な生産と消費を十分に達成しています。しかし、現時代で新規参入、創業挑戦については、やや慎重過ぎるのかと思います。明治維新後の日本は改革、革新の精神が旺盛でした。昭和初期、国は方向性に混迷し、失敗をしました。

ピータ・ト・ラッカーは『マネシ・メント』を書くときに大いに参考にしたのが日本の老舗企業だったと言われます。 日本の社会、経済の底流にあるのは外来文化を取り入れ、日本の実情に合わせて加工、変形していく メンタリティ・精神構造にあるのかも知れません。最近、日本へ年間2千万人を超えるインバウント・外国人が やって来ますが、彼らのほとんどは日本の表層的なことに関心があっても、なかなか深層までは 見ていない、見ることができていないように思います。日本に長年住み、日本語を理解する少数の 人達だけが日本の深層をたどり着いているように思います。日本人だからといって、皆が均等に 深層にたどりついているわけでもなさそうです。私自身、深層があることに気付いただけで、まだ 日本の精神構造の深層についてわからないこと、知らないことばかりです。